



みんなの水泳……日々徒然

東京2020に向けて ～WPS世界選手権の年、枠取りの年、2019年～

▶はじめに

前回は、2018年に行われたダブリン2018WPS欧州選手権およびインドネシア 2018 アジアパラ競技大会についてお伝えしました。

今回は、東京2020パラリンピック競技大会の前年である2019年の諸々について、お伝えしたいと思います。

▶2019 WPS 世界選手権はどこで… その影響…

今年マレーシアのクチンで開催される予定だった2019 WPS世界選手権の開催権をなく奪取することを、1月27日に国際パラリンピック委員会 (IPC) が発表しました。マレーシア政府がイスラエルにビザを発行しないという理由から、IPCが決定したものです。

同時に、世界選手権は中止しない、2月11日までに代替の開催地を知らせる、ということを示しましたが、3月8日現在、どこで開催されるかについては、まだ発表がありません。選手のコンディションやトレーニング計画に影響を与えないように、できるだけ元の日程での開催を模索しているとのこと。早期に代替開催地が決まることを祈るばかりです。

東京2020実施種目において、世界選手権での1位と2位に対して枠が付与されることになっており、各国はこの大会で、「枠の奪い合い」を繰り広げることになります。そういう意味でも、各国はこの世界選手権を非常に重要な大会として位置付けし、強化に取り組んでいるのです。

また、今年のワールドシリーズ大会および世界選手権前のクラス分けで、2018年から実施されているクラス分けの見直し概要が概ね一段落することから、現在の「世界地図」が見えてくると言われています。枠取りと併せて、クラス分け状況とランキングを含めた「パラ水泳の今の世界地図」を確認し、強化対策や東京2020パラリンピック競技大会への選手選考などについて情報を取り入れていく意味でも、非常に重要な大会となることでしょう。

▶2019 WPSワールドシリーズが 始まりました

2017年から始まったWPSのワールドシリーズ大会ですが、2019年で3回目のシーズンとなります。パラリンピックメダリストから国際大会デビューする新人まで幅広い選手が参加します。

今年のシリーズは、初めての豪州開催、メルボルン大会 (メルボルンスポーツ・アクアティックセンター) で始まり、16カ国から約150名の選手が参加しました。日本からは10名の選手が参加しました。



競技会場となったメルボルンスポーツ・アクアティックセンター。屋根付きの屋外プールでした。



大会のメダル。ワールドシリーズではなく大会名の「Victorian Open Championship」が刻印されていました。



選手の控えスペースも屋外。芝生の上にデッキチェアを出して休憩もできます。



大会に参加した日本代表選手たち。チームより写真をご提供いただきました。

この後のシリーズは、次のとおり。(日本選手の参加については各連盟のHPなどでご確認ください)

- ・4月4日～6日：インディアナポリス大会 (米国)
- ・4月25日～27日：サンパウロ大会 (ブラジル)
- ・4月25日～28日：グラスゴー大会 (英国)
- ・5月10日～12日：シンガポール大会
- ・5月30日～6月2日：リニャーノサビアドーロ大会 (イタリア)
- ・6月6日～9日：ベルリン大会 (ドイツ)

ワールドシリーズ大会では、各大会のリザルトをポイントシステムで計算し、ワールドシリーズ大会最優秀女子選手と最優秀男子選手を選出します。S / SB1～3の重度選手の前最優秀女子選手と最優秀男子選手、またジュニアの前最優秀女子選手と最優秀男子選手なども選出されます。今シーズンは誰が選ばれるのかも興味深いところですよ。

また、2018年から引き続いて、国際クラス分けの見直しがこのワールドシリーズ大会で実施されていきます。世界選手権を含めて、2019年で概ね一段落するはず。東京2020大会に出場するためには、とにかく早期に国際クラス分けを受検し、ステイタスを確定させることが重要です。

ただし、希望すればクラス分け受検できるわけではなく、WPSと連絡・調整をして、肢体不自由 (PI)、視覚障がい (VI)、知的障がい (II) のクラス分けがどの大会で行われるのか、クラス分け受検のための枠を確保すること、が必要となってきます。現在も、クラス分けの受検枠はなかなか確保しづらい状況にあ

り、各国とも希望通りに枠が確保できていないような状況です。選手を送る側は、ライセンス登録、そのために必要な医学的な書類含めて、十分に前もって準備しておくこと、渡航などについても柔軟に対応できるように準備しておくことが必要となっています。

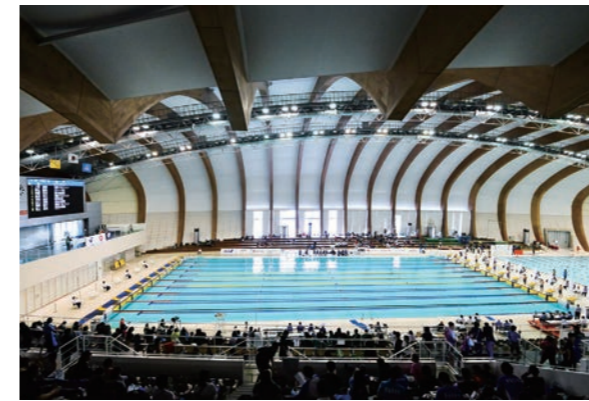
▶2019年春季記録会…in 富士

2019年3月2日～3日に富士水泳場で、2019パラ水泳春季記録会が開催されました。世界選手権に派遣する代表選手の選考を兼ねた大会で、14名 (男子9名、女子5名) が派遣標準記録を突破しました。

●2019世界パラ水泳選手権大会 日本代表選手

身体障がい：8名 (男子5名、女子3名)	木村敬一、鈴木孝幸、富田宇宙、中村智太郎、山田拓朗、石浦智美、辻内彩野、成田真由美
知的障がい：6名 (男子4名、女子2名)	田中康大、東海林大、中島啓智、山口尚秀、北野安美紗、芹澤美希香

(身体、知的ともに五十音順)



毎年、春季記録会が開催されている静岡県富士水泳場。



今大会も多くのメディアが取材に訪れ、東京2020大会に向けての関心の高まりを感じました。

今回の春季記録会では、WPSから2名をお招きして、競技役員や競技運営についてアドバイスをいただきました。東京2020パラリンピック競技大会のパラ水泳でテクニカルデレгатとなるSue PrasadさんとアシスタントテクニカルデレгатとなるTony Wardさんから、競技規則と審判方法についてのさらなる理解や競技運営における注意事項など、国内大会とWPS国際大会、またパラリンピック大会での違いなどについて、様々なことを教えていただきました。

泳法審判など、泳法に関する規則の違いはありませんが、競技役員の運用などは異なります。

例えば、泳法審判や審判長、スターターなど、日本国内では30分など一定の時間で交代をする方式が通常ですが、パラリン

ピック大会やWPS主要大会では、セッション内で競技役員が交代することは通常ありません。現在の予定では東京2020大会の午前セッションは9:00から11:30まで、午後のセッションは17:00から21:00までですが、この間、折返し監察なり、泳法審判なりに配置されれば、ずっと交代なしで勤めることとなります。パラリンピック大会では、これが10日間続きますので、かなりタフな業務となります。



東京2020大会でテクニカルデレгатとなるSue Prasadさん(中央)とアシスタントテクニカルデレгатとなるTony Wardさん(右)。



審判方法や大会の運営に関する注意事項など、多くのご質問が寄せられていました。

東京2020パラの水泳は…

東京2020パラリンピック競技大会における様々なスケジュールが、順々に発表になっていることはこれまでお伝えしてきました。

パラ水泳競技の各スケジュールは次のとおり。

●競技日程

- ・2020年8月26日 (水) から9月4日 (金) まで (10日間)
- ・セッションスケジュール：午前セッション9:00～11:30、午後セッション17:00～21:00

「どの日に何の種目が行われるのか」を示すイベントスケジュールはまもなく発表される見込みです。

東京2020パラリンピックにおける選手枠数、実施種目、枠配分方法、MQS (標準記録) についても既に発表されています。

●参考

選手枠の配分方法などは、『Tokyo2020 Paralympic Games Qualification Regulations』に記載されています。

URL https://www.paralympic.org/sites/default/files/document/180719082846038_2018_07_19%2BTokyo%2BQG.pdf (最新版は2018.7月版)

